

# 共通語彙基盤の推進状況

## 共通語彙基盤の現状

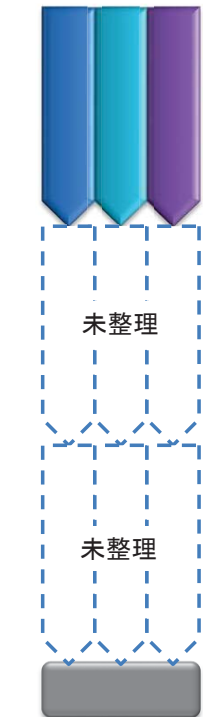
- 平成6年「行政情報化推進基本計画」閣議決定
  - 省庁間の情報の共有及び円滑な流通に必要なデータコード、データ項目等基本的事項の標準化
- 平成23年「共通語彙基盤（公共情報交換標準スキーム）プロジェクト」開始
- 平成25年「世界最先端IT国家創造宣言」閣議決定
  - データの組み合わせや横断的利用を容易とする共通の語彙の基盤構築にも取り組む。
  - 国民がステークホルダーとして積極的に参加できるよう、クラウドを活用したオープンな利用環境を、データ・フォーマット、用語、コード、文字等の標準化・共通化、APIの公開等を行いつつ整備する。
- 平成25年「情報連携用語彙データベース、ツールプロジェクト」開始
- 平成26年「電子行政分野におけるオープンな利用環境整備に向けたアクションプラン」CIO連絡会議決定
  2. 1 オープンな利用環境の実現（2）用語の共通化等について
    - システム間の連携やデータの二次利用を円滑にするためには、氏名、住所、組織等の普遍的用語の記述に関する情報連携用語彙の早期整備を図るとともに、各組織が運用する既存の語彙との連携方法を整理することが必要である。
    - 経済産業省において、国際的な連携を踏まえた情報連携用語彙の整備を進め、整備された語彙から順次公開するとともに、平成27年度中に情報連携用語彙DBの運用を開始する。
    - 総務省において、情報流通連携基盤共通API等の開発・実証を平成27年度中に行う。

# オープンな利用環境整備のためのアクションプラン

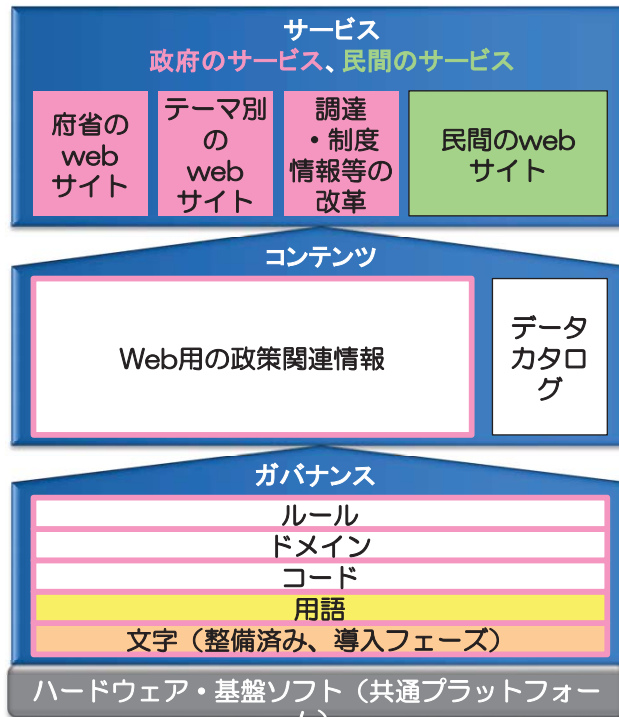
## ■ 政府の情報提供基盤の抜本的な改革。

表面的な改革でなく、基盤から整理し、2020年に機動的にサービスを創出する環境を実現

従来は統一方針なく  
独自サービスを構築



アクションプランでは基盤から積み上げるので  
サービス構築、連携、更新が容易



### 新たな利便性の高いサービス

- ・情報の組み合わせ
- ・プロセスの見直し
- ・APIを通じた民間サービス開発

### 組み合わせ自由な素材群

- ・情報構造の共通化
- ・見出しデータの共通化
- ・重要な情報の集積

### 標準化・共通化した基盤

- ・基本情報の共通化
- ・持続的に発展可能な標準の採用
- ・設計・開発の共通化

## コア語彙2.0

- コア語彙とドメイン語彙という、基本フレームワークは継承し、コア語彙の内容を精査。

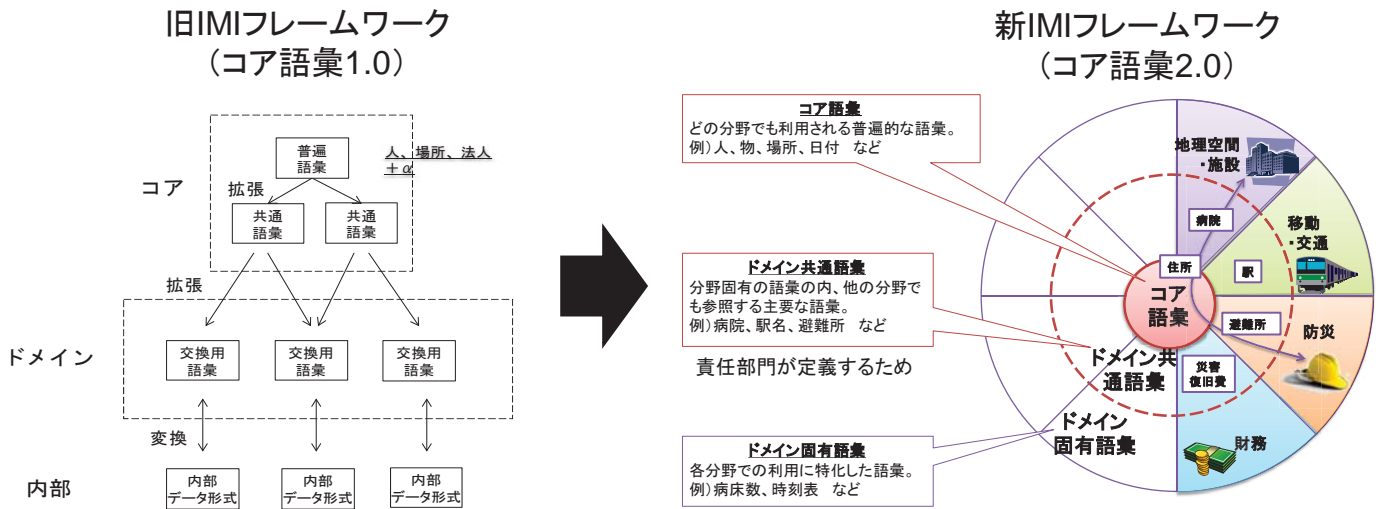


### 改定のポイント

- ・共通語彙の位置づけを、コアドメインの共通語彙から、ドメイン共通語彙へ変更
- ・共通語彙の位置づけ変更に伴い、ドメイン語彙を、ドメイン共通語彙とドメイン固有語彙に変更
- ・コア語彙内容の精査・変更
- ・NIEM、ISAマッピングに加えて、UN/CEFACTへマッピング

## 語彙の構造

- コア語彙の中身を普遍的な内容に絞り、基盤構造をシンプル化。
  - 人、物、氏名、場所、組織、時間、施設、建物、設備、日時、イベント、各種数値表記等



- ドメイン語彙は、現在、実証中の内容を踏まえ、夏までに、順次整備予定。

4

## 2014年度の推進方針

- 2012年度は、事前調査（検証用の基盤づくり）
- 2013年度は、基礎調査とプロト構築
- 2014年度は、基盤整備と実利用での検証＋利用モデル普及とドメイン展開
  - 社会的ニーズが高いため、2015年度計画も前倒して実施

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コア語彙	→											
氏名、住所、組織IEP2.0			→									
施設、設備IEP2.0				→								
データカタログ構築						→						
実証結果のIEP化							→					
データカタログ運用								→				
情報連携用語彙DB検証	→											
情報連携用語彙DBアジャイル展開										→		
実証	→											
実証、ハッカソン、コンテスト等											→	
電子行政アクションプラン、情報流通基盤共通APIとの連携検討	→											

5

- 語彙プロジェクトの推進は、国内の調整とともに国外との連携が重要であり、関係各所との意見交換を実施。

4月 ISAとの意見交換@SEMIC2014



- 7月に米国および欧州との情報交換を実施予定。

6月 OMGとの意見交換@Tokyo (予定)

**NIEM-UML**

In September 2013, the Object Management Group (OMG) Board of Directors officially finalized the Unified Modeling Language (UML) Profile for NIEM (or NIEM-UML) as an OMG specification. NIEM-UML for Version 2.1 is the result!

NIEM-UML is an extension of a subset of Unified Modeling Language that is specific to NIEM. NIEM-UML generates 100% NIEM conformant information exchanges and provides a visual representation of those exchanges that is understandable to both technical and business users. This enables organizations to align their information exchanges with their business requirements.

What's more, architects and developers who build NIEM exchanges don't need to worry as much about the technology details, as outlined in the NIEM Naming and Design Rules (NDR) and the Model Package Description (MPD) Specifications. Because these specifications and rules are already written into the profile, this minimizes complexity and enables a better understanding of what it means to be NIEM conformant.

Ultimately, NIEM-UML's use is dependent on tools that implement the profile. Tools will simplify the development and implementation of NIEM based information exchange technologies.

NIEM-UML for Version 2.1 is currently in progress. The timeline below will be updated as we progress.

NIEM-UML for 2.1 Finalized by Object Management Group (OMG)

UN/CEFACTとの意見交換@Tokyo

## 海外の動向

## 米国の動向

- NIEM3.0が2013年9月にリリースされ、4月にNIEM-UML for 3.0がリリースされた。NIEMの改定では、全体の精査とドメインの追加が行われた。DoDも2013年にNIEMの採用を正式に決定している。

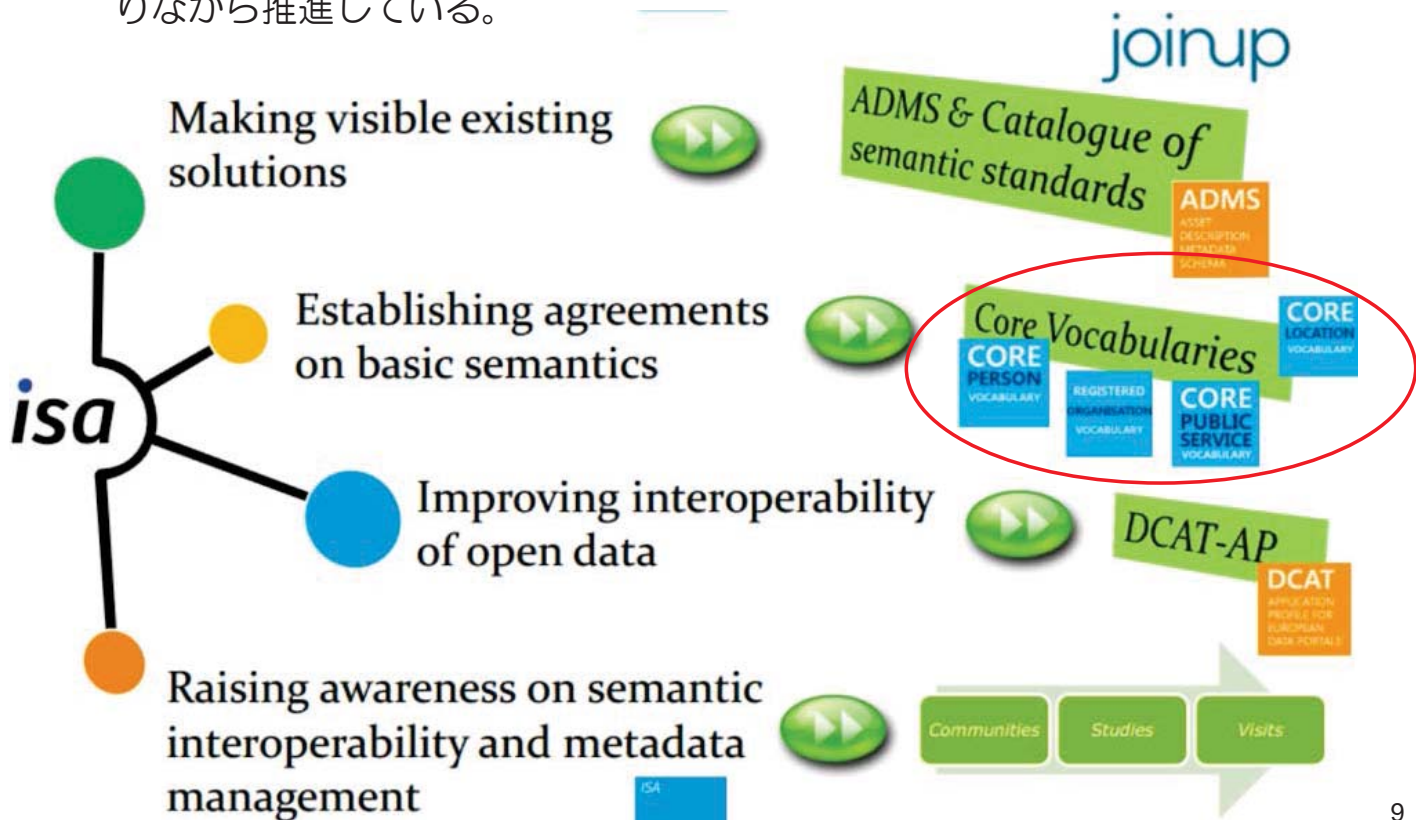


- カナダ、メキシコとの連携、ヨーロッパとの連携などを推進。

8

## 欧州の動向：ISA

- ヨーロッパの相互運用性フレームワークの中で推進。W3Cとの連携を図りながら推進している。



9

## 欧州の動向：ポータルとコミュニティの融合

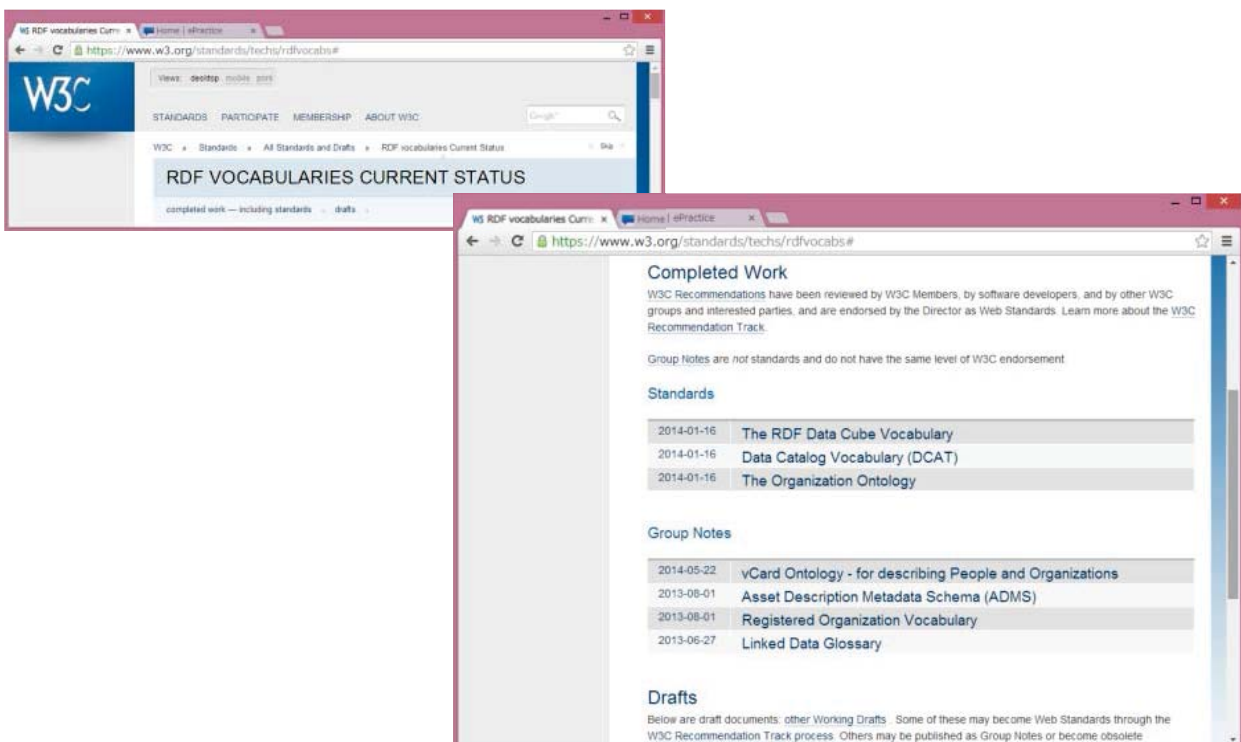
- 2014年6月下旬に、ポータルサイトを中心とするePracticeとコミュニティを通じた専門的検討を進めるjoinupが統合される予定。
  - ▶ 知識とコミュニティの融合を図る



10

## W3C

- W3Cにおいても各種ボキャブラリの整理をしており、注視していくことが重要。



11

- 新しいカテゴリーの設定など、活発な議論が行われている。

